

6.こんなはずじゃなかった…進路変更を考えた時には

みなさんはなぜ大学に行こうと思われましたか。勉強したい専門分野があったから？学歴を身につけるため？就職に有利だから？あるいはみんなが行くから他に選択肢がなかったという人もいるかもしれません(「Topic 8. 数字で見る女学院生」参照)。

どんな理由であれ、大学に行くことが可能な環境にいるということは感謝すべきことです。しかし、きっかけはなんであれ、卒業するのは自分のためです。大学で学ぶことやさまざまな経験をすることは、何より社会に出る前に自分の将来や進路についてじっくり考える機会をもらったということです。

(1)不本意入学の場合

ほんとは別の大学に行きたかった。希望の大学に受からなかった。もっと頑張っていたら違う大学にいったのに。そんな思いを抱えながら入学した人もいるでしょう。受験の時は余裕がなく、実際入学してみてから自分はこんなはずではなかったと思うこともあるでしょう。そんな時は思う存分悩みましょう。10代20代の時の1年や2年は、長い人生を考えると決して大きな損失ではありません。むしろ、自分や自分の将来について、真剣に悩む時間があればあるほど、その後の人生を主体的に生きることができるといえるでしょう。

(2)途中で興味関心が変わった場合

大学生はいろいろなことを吸収できる時期であり、自分の興味の対象が変わることは十分ありえます。そんな時もとことん悩むことが、自分をごまかすよりも早道であることもあります。おもしろいと思ったことはつらくても頑張れますが、他人の価値観で選んだことを頑張るのはただつらいだけです。自分の気持ちに素直に耳を傾けるのは、なかなか難しいことですが、進路を変えるタイミングに遅すぎるということはありません。

(3)大学を続けることが苦しくなった時

「みんなが行くから」「親や先生が勧めるから」大学に来た人もいるでしょう。しかし大学での勉強は、高校とは違って、言われたとおりのことをしているだけでは卒業できません。自分で問いを立て、疑問に思ったことを自分で調べ、卒業論文を書かなければ卒業できません。そういった抽象的な作業にどうしても興味が持てないこともあります。自分の考えがどうしても出てこないこともあるでしょう。本当に大学を卒業したいのか、自問自答することが必要な時もあります。自分だけではなく家庭の事情や体調的なことなどで、どうしても大学生活を続けていくのが難しくなる時もあります。やむを得ず進路を変更せざるを得ない場合、どのような進路がよいのか、大学を離れた後どうしたいのかを、一緒に考え、よりよい方法を一緒に探すこともカウンセラーの役割の一つです。進路や将来のことで迷ったり悩んだりした時には、遠慮なくカウンセラーにご相談ください。